



公益財団法人
ダスキン愛の輪基金
2018年度(第38期)事業報告書

D U S K I N A I N O W A



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

感謝を込めて…

合掌 日頃は愛の輪運動へのご支援ご賛同を賜り心より感謝申し上げます。

1981年、「めい あい へるぷ ゆう」(何かお手伝いできることはありませんか?)との想いで始まりました愛の輪運動は、今年で39年目を迎えます。

現在、「ダスキン愛の輪基金」では、主に二つの事業に取り組んでいます。

一つは、財団設立時から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」。地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に派遣する事業です。現在まで512名が研修を終了し、帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パラリンピック選手など様々な分野で活躍されています。

2つ目は、1999年より実施している「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、障がい者福祉を学んでいただく事業です。現在まで28カ国137名が研修を終了し、帰国後は母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの活動は、会員の皆さまからの会費やミスタードーナツ店舗などでの募金、そして多くの方々からの献金と、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの支えによって続けることができました。

今後も、研修修了生と会員の皆様との触れ合いの場を積極的に設け、愛の輪運動の意義を一人でも多くの方に伝え、もっともっと大きな輪にしていきたいと考えております。

これからも公益財団としての社会的責任を果たし、「愛の輪の活動」をより多くの方にご理解いただくための取り組みを行い、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてまいります。

今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。 合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

理事長 山村輝治



ダスキン障害者リーダー育成 海外研修派遣事業



ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の 構成 (512名)

地域別(応募時)

| | | | |
|-----|------|----|------|
| 北海道 | 9名 | 北陸 | 13名 |
| 東北 | 28名 | 近畿 | 101名 |
| 北関東 | 61名 | 中国 | 20名 |
| 南関東 | 58名 | 四国 | 15名 |
| 東京 | 116名 | 九州 | 42名 |
| 東海 | 49名 | | |

性別

| | |
|----|------|
| 男性 | 234名 |
| 女性 | 278名 |

障がい種別

| | |
|-------|------|
| 知的障がい | 77名 |
| 視覚障がい | 111名 |
| 聴覚障がい | 99名 |
| 盲ろう | 2名 |
| 肢体不自由 | 201名 |
| てんかん | 10名 |
| 内部障がい | 8名 |
| 精神障がい | 3名 |
| 発達障がい | 1名 |

海外派遣先別

| | |
|----------|------|
| アメリカ | 395名 |
| イギリス | 28名 |
| スウェーデン | 15名 |
| オーストラリア | 12名 |
| ニュージーランド | 14名 |
| ドイツ | 11名 |
| カナダ | 9名 |
| フィジー | 8名 |
| フィンランド | 5名 |
| イタリア | 4名 |
| ノルウェー | 3名 |
| デンマーク | 3名 |
| フランス | 1名 |
| フィリピン | 1名 |
| ロシア | 1名 |
| 大韓民国 | 1名 |
| コスタリカ | 1名 |

各州のろう学校を訪問して環境や教育を学び、 ICT機器を生かした取り組みを体験しました。

小学校の英語教育早期化に向けて「日本の聴覚障がい児が関心を持てる英語の学習方法とは何か」を学ぶため、アメリカのギャローデット大学を拠点に研修を行いました。アメリカ手話の言語学やろう文化などの授業を受講するとともに、多彩な留学生との交流を通して、他国の英語教育やそれぞれの人種、宗教、文化や歴史観の違いを知ることができました。また、各州のろう学校を訪問して環境や教育について学びました。アメリカでは障がいの程度や学習能力、ニーズに応じて適切な配慮があり、ディスカッション中心の授業

は子どもの集中力や興味を惹きつけるよう十分に工夫されていました。それらは子どもたちの豊かな自己表現力と自己肯定感を養い、アクティブラーニングにつながっていました。他にもiPadを利用した電子絵本や電子黒板など、ICT機器を生かした取り組みが進んでいて、今後日本でもIT技術の発達に伴ったさらなる学習の変化が訪れるものと感じました。この研修で学んだことを今後に反映し、聴覚障がい児の英語に対する心理的距離感を縮められるよう、ろう教育に貢献できる人材になりたいと思います。



個人研修生

上田 大貴さん
(聴覚障がい)

【研修先】アメリカ
【研修期間】2018年8月19日～2019年5月12日
【研修テーマ】ろう学校の早期英語教育



手付かずの熱帯雨林に寝泊りした旅で、 目標となるプロジェクトと出会いました。

「どうしてコスタリカを選んだの？」とたびたび不思議がられますが、私自身はこの国での研修は必然だったと感じるほど、今後の人生につながるような良い影響をたくさん与えられました。もともと環境先進国と言われるこの国の取り組みを学びたくて応募した研修であり、政策提言の現場にいられることは、とても貴重な経験でした。私自身は、UNDP(国連開発計画)コスタリカオフィスでインターンをしました。街中で行われる環境系イベントに参加して、その様子をブログで発信したり、ホームページや各種書類などを視覚障がい者にも使

いやすくしたりするための提案をしました。休日には、各地の国立公園や動物保護センターなどを訪れ、この国が大切にしている物を肌で感じました。なかでも、障がい者自立支援センター・モルフォで知り合った視覚障がいの生物学者と、手付かずの熱帯雨林の中で寝泊りした旅は強烈に印象に残っており、これから自分がずっと関わっていきたいと思えるプロジェクトとの出会いともなりました。コスタリカでの学びを、外に出て改めて愛着を抱いた日本の社会に還元したいと思います。



個人研修生

大下 歩さん
(視覚障がい)

【研修先】コスタリカ共和国
【研修期間】2018年11月1日～2019年8月29日(予定)
【研修テーマ】コスタリカの環境政策を学ぶことから、障がい者の自然へのアクセスの充実を図る



自身が変われば周囲の目が変わり、 やがて社会が変わるという理念を学びました。

韓国旅行を繰り返すにつれて、「障がいを持っている人はどう過ごしているのだろう」という好奇心が大きくなり、実際に一人暮らしを経験しながらソウル市にある「ソウル障害者自立生活センター」で、自立を望む当事者の活動とピアカウンセリングのつながりをテーマに研修を行いました。韓国では、介助サービスや生活に必要な金額の年金など、本当に必要な支援を受けられないケースが多く、本人に沿った支援の提供を求める当事者側と、障害等級制度の廃止・支援内容の選択肢を広げようとする「個人予算制度」の導入な

ど、官民双方が試行錯誤を繰り返しています。「障がいを持っていても、人として社会の中で生きる権利がある」と社会を変えようとする熱気は非常に強く、数百人規模で行われる行進や集会は韓国ならではの経験でもありません。「自身が変われば周囲の目が変わり、やがて社会が変わる」という理念を、ピア・カウンセリングと当事者たちの活動から学びました。障がいを持っている仲間も十人十色。それぞれに合った自立支援のさらなる開拓に向けて、これからも学んでいきたいと思っています。



個人研修生

大城 亮さん
(肢体不自由)

【研修先】大韓民国
【研修期間】2019年1月28日～2020年1月27日(予定)
【研修テーマ】障がい者が家族から自立する際のピアカウンセリングを中心とした支援方法



アメリカで実際に暮らし、細かい部分まで知り 体験・体感することができました。

アメリカ合衆国イリノイ州にあるシカゴ大学で障がい学を専攻しながら、同じシカゴにある自立生活センター「アクセシビリティ」のコース部署で、「インクルーシブ教育と若手障がい者への支援方法」の研修を行いました。大学で、アメリカの障がい者運動の歴史や障がい者に関わる必要な法律などを学ぶことで、アクセシビリティの現場で行われていることが、どのような当事者運動によって、法律化され、適用されることになったのかを深く学びました。また、公立高校へ行き、学校の先生、17歳～21歳の高校3年生の障がいのある

生徒、その親御さんと連携を取りながら、個々の夢に合わせた支援やセッションを任せてもらいました。アメリカで実際に暮らしたことで、細かい部分まで知ることや体験・体感することができました。特に21歳未満の障がい当事者や障がい児のための教育法、IEA法(全アメリカ障害児教育法)を知り、現地での支援のしかたを知ることができたのは、学校システムを変えていく上で大きな財産になったと思います。これからは、その財産をどのように日本の教育システムにあてはめていくかを模索しつつ、取り組んでいくつもりです。



個人研修生

大橋 グレース愛喜恵さん
(肢体不自由・発達障がい)

【研修先】アメリカ
【研修期間】2018年8月19日～2019年7月28日
【研修テーマ】障がい種別を超えたユースへのメンターシップ、自立プログラムについて学ぶ



ミドルグループ研修

【グループ名】英国フットボール文化視察団
【研修先】イギリス(イングランド):ロンドン、マンチェスター、バートン
【研修期間】2018年9月13日～25日
【研修内容】ロービジョンフットサルを通じて、日本の弱視の子どもたちの可能性を開花させる

岩田 朋之さん(グループリーダー)



研修では、英国とは文化や価値観が違うからこそ、計画を綿密に練り、それを踏まえて現地の人々や機関と修正や変更をすること、軸を持ったうえで臨機応変に対応することが、障がい者リーダーとして自立するために必要だと学びました。

角谷 佳祐さん



現地で出会った弱視のゴールキーパーの熱意から感じた「可能性」と、密接なコミュニケーションをとるコーチと選手から学んだ「一人ひとりにしっかり接する」ことの大切さを、子どもたちに伝えられるプレーヤーであり続けたいと思います。

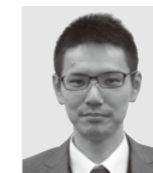


丸山 哲生さん



英国では、FA(イングランドサッカー協会)とクラブチーム、地域社会とそこに暮らすすべての人々が何らかの形でつながっており、フットボールを通して価値観を共有し、社会をより豊かなものへ発展させていることを肌で感じました。

大平 英一郎さん

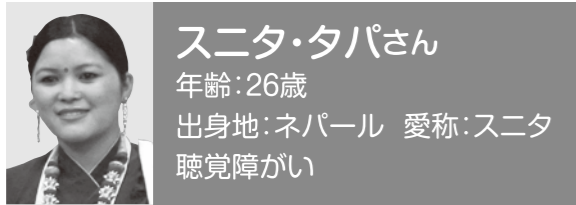


フットボールを通して地域に積極的に出て行くことや、自分たちにできるプログラムを提供していくことで地域から支持され、障がい児にとって魅力的で目標となるクラブ作りができることを、この研修によって実感できるようになりました。



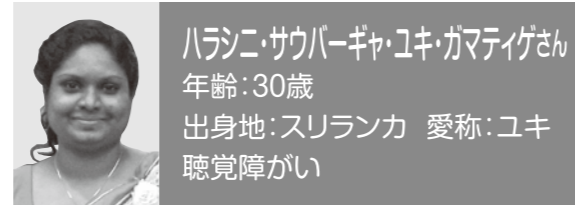
1999年の発足より20年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。応募者227名の中から選出された第20期の5名は、2018年9月25日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが約10ヵ月の研修に臨みました。



スニタ・タパさん
年齢:26歳
出身地:ネパール 愛称:スニタ
聴覚障がい

スニタさんは、2016年に第4回世界ろう連盟アジア青年部地域主催の青年キャンププログラムの研修のためシンガポールに渡航し、ろう者の友人とともにネパール代表として参加。日本の研修では、若いろう者をエンパワメントする方法やろう者の就労、高齢ろう者のサポート、コンピュータの基礎的な技術の習得、地方におけるろう協会の運営方法などを学びました。帰国後は地元のシャンジャー郡ろう協会に戻り、協会の基盤整備に努めるとともに、高齢ろう者がいきいきと暮らせる環境づくりを行うことを目標としています。



ハラニ・サブバーギャ・ユキ・ガマティゲさん
年齢:30歳
出身地:スリランカ 愛称:ユキ
聴覚障がい

日本で生まれ、筑波大学附属聾学校の幼稚園に通っていたこともあるユキさん。現在は自国のラトマラーナろう学校で、小学部の生徒に英語を教える教員として活躍しています。日本では、手話や書記言語、口語の指導方法をはじめ、ろう児にとってわかりやすい授業の組み立て方、ろう者や手話を社会に認知してもらうための活動を学習。帰国後の目標はろう学校に復職し、ろう児の特性を生かした指導法の実践や、日本とスリランカの友情がより深まるように、自国のろう者に日本語や日本手話を紹介することを目指しています。



- カザフスタン 2名
- タジキスタン 2名
- キルギス 1名
- アフガニスタン 1名
- ウズベキスタン 1名

- ネパール 12名
- パキスタン 9名
- バングラデシュ 6名
- スリランカ 6名
- インド 5名
- モルディブ 2名
- ブータン 1名

- 韓国 6名
- 台湾 9名
- モンゴル 6名
- 中国 4名

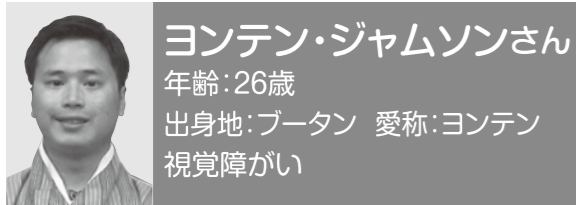
- ベトナム 8名
- フィリピン 10名
- インドネシア 7名
- カンボジア 7名
- マレーシア 6名
- ミャンマー 6名
- タイ 6名
- ラオス 5名
- シンガポール 2名

第20期生 日本での主なスケジュール

- 2018年9月……開講式
日本語(日本手話)研修
- 2018年12月……日本語・日本手話成果発表
グループ研修
- 2019年1月……ホームステイ
グループ研修
- 2019年2月……個別研修(～5月)
グループ研修(5月～6月)
- 2019年6月……成果発表会・修了式

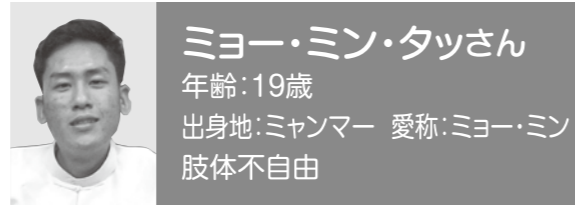
現在までに
28の国と地域から
137名が参加

- パプアニューギニア 1名
- フィジー 5名
- ソロモン 1名



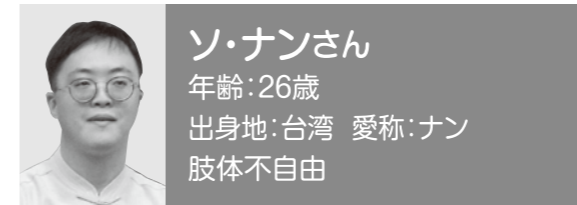
ヨンテン・ジャムソンさん
年齢:26歳
出身地:ブータン 愛称:ヨンテン
視覚障がい

自国では首都ティンブーにあるブータン障害者協会のスタッフとして、障がい者の自立生活スキル獲得のプロジェクト運営や、教育支援などを担当しているヨンテンさん。研修では、障がい者の就労機会の創出、視覚障がい者団体の設立方法やその活動内容、選挙におけるアクセシビリティ、点字印刷の方法、DAISYおよびパソコン技術(ウェブサイト作成)などを習得。帰国後は、ブータン初の視覚障がい者団体を設立し、生活訓練や就労支援などへの取り組み、障がいのある人の参政権を保障するための活動などを行う予定です。



ミョー・ミン・タツさん
年齢:19歳
出身地:ミャンマー 愛称:ミョー・ミン
肢体不自由

来日前は、ミャンマーにあるエデン障害児センターで権利擁護ボランティアとして、学校に通う障がい児の支援や、彼らが抱える問題を政府関係者に伝える活動をしていたミョー・ミンさん。日本では障がい者の権利擁護と啓発活動、障がい者スポーツ(特にバスケットボール)、公共交通機関のバリアフリーなどを研修。帰国後は、障がい者教育やバリアフリーを推進する団体での活動を目指しており、長期的には障がい当事者リーダーとして、障がいのある人もない人も暮らしやすい社会にすることを目標としています。



ソ・ナンさん
年齢:26歳
出身地:台湾 愛称:ナン
肢体不自由

ナンさんは、台湾障害者権利協会の理事として、障がい者の平等な権利の促進や障がい者の人権保持、障がい分野のリーダーたちとの国際的な対話や協力の促進、政府への提言、また、学生ボランティアのリクルートなどの支援を実施しています。研修では、障がい当事者団体におけるリーダーの役割やカウンセリング・障がい分野に関する学問、日本の障がい者の権利擁護などを学習。帰国後は、重度障がい者の生活を支援するための制度(特に生活保障)の構築をはじめ、自立生活センターの活動を手伝うことを目標にしています。



全国各地で活発な愛の輪啓発活動が行われ、 ご理解とご支援の輪がさらに広がりました。

ミスタードーナツ 第39回フレンドシップフェスティバル

愛の輪タイムで研修派遣生による研修報告と 聴覚障がい者の接客に役立つワンポイント手話を体験

今年で39回目を迎えた「ミスタードーナツ フレンドシップフェスティバル」。全国10会場で開催された地域大会の愛の輪タイムでは、研修派遣生による講演(別表)のほか、ワンポイント手話教室では聴覚に障がいのあるお客様との接し方について、お店で役立つ簡単な手話を参加者全員で実施しました。



| 地域 | 研修派遣生 | 会場 |
|---------|--------------------|-------------------------|
| 北海道地域 | 第27期研修派遣生 廣瀬 有紀さん | ANAクラウンプラザ札幌 |
| 東北地域 | 第29期研修派遣生 廣川 麻子さん | 花巻温泉 ホテル花巻 |
| 北関東地域 | 第35期研修派遣生 平井 望さん | 伊香保温泉 ホテル小暮 |
| 東京地域 | 第29期研修派遣生 廣川 麻子さん | ヒルトン東京ベイ |
| 神奈川地域 | 第27期研修派遣生 廣瀬 有紀さん | 大磯プリンスホテル |
| 北陸地域 | 第29期研修派遣生 廣川 麻子さん | ホテルアローレ |
| 東海地域 | 第33期研修派遣生 山本 真記子さん | ANAクラウンプラザ ホテルグランコート名古屋 |
| 近畿地域 | 第36期研修派遣生 重田 竜佳さん | 神戸ポートピアホテル |
| 中国・四国地域 | 第29期研修派遣生 廣川 麻子さん | ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル |
| 九州地域 | 第33期研修派遣生 岩山 誠さん | ハイアットリージェンシー福岡 |

ダスキン感謝のつどい

愛の輪タイムで研修派遣生が講演

全国各地で開催された2018年度「ダスキン感謝のつどい」にて、愛の輪の研修派遣生が講演を行いました。参加された研修生は別表のとおりです。



| 地域 | 研修派遣生 | 会場 |
|-------|-------------------|-------------|
| 近畿地域 | 第19期研修派遣生 神保 康弘さん | 神戸文化ホール |
| 北海道地域 | 北海道胆振東部地震のため中止 | 札幌教育文化会館 |
| 東北地域 | 第34期研修派遣生 蔵本 紗希さん | 北秋田市文化会館 |
| 東京地域 | 第19期研修派遣生 神保 康弘さん | 浅草公会堂 |
| 東海地域 | 第36期研修派遣生 大藪 光俊さん | 三重県総合文化センター |
| 中国地域 | 第28期研修派遣生 小坪 琢平さん | おかもま未来ホール |
| 九州地域 | 第19期研修派遣生 神保 康弘さん | 久留米シティプラザ |

ダスキン新春のつどい

全国各地で研修派遣生が講演



- 【東北地域】 1月10日、ウェスティンホテル仙台にて第36期研修派遣生・高橋菜美子さんが講演。
- 【南関東地域】 1月11日、横浜ベイホテル東急にて第34期研修派遣生・木戸奏江さんが講演。
- 【東海地域】 1月10日、松阪市産業振興センターにて第36期研修派遣生・今岡称さんが講演。
- 【近畿地域】 1月11日、ザ・リッツカールトン大阪にて第26期研修派遣生・常瑠里子さんが講演。
- 【中国・四国地域】 1月15日、皆生グランドホテル天水にて第26期研修派遣生・常瑠里子さんが講演。
- 【九州地域】 1月17日、エムアールティ・ミックにて第24期研修派遣生・新垣正樹さんが講演。

正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

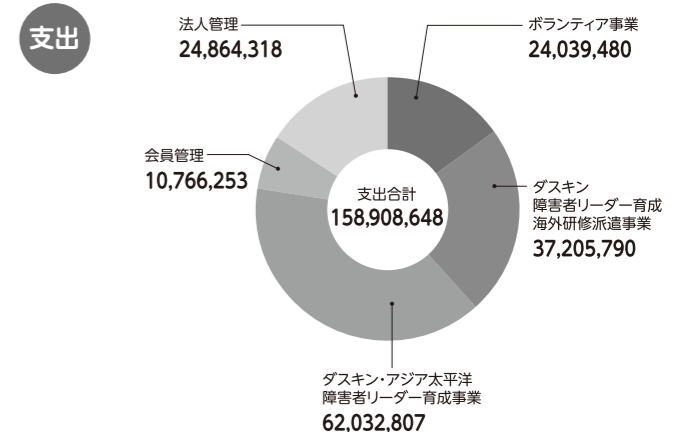
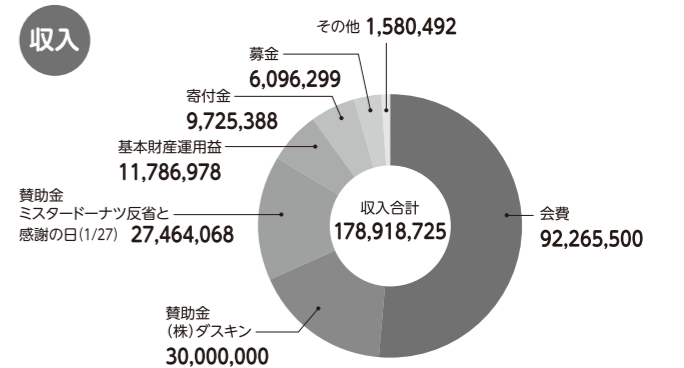
| 科目 | 合計 |
|---------------|---------------|
| I 一般正味財産増減の部 | |
| 1. 経常増減の部 | |
| (1) 経常収益 | |
| 基本財産運用益 | 11,786,978 |
| 基本財産受取利息 | |
| 受取会費計 | 149,729,568 |
| 受取寄付金計 | 15,821,687 |
| 雑収益計 | 1,580,492 |
| 経常収益計 | 178,918,725 |
| 経常費用計 | 158,908,648 |
| 当期経常増減額 | 20,010,077 |
| 2. 経常外増減の部 | |
| (1) 経常外収益 | |
| 経常外収益計 | 0 |
| (2) 経常外費用 | |
| 経常外費用計 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 20,010,077 |
| 一般正味財産期首残高 | 79,717,253 |
| 一般正味財産期末残高 | 99,727,330 |
| II 指定正味財産増減の部 | |
| 当期指定正味財産増減額 | -6,559,600 |
| 指定正味財産期首残高 | 1,840,342,600 |
| 指定正味財産期末残高 | 1,833,783,000 |
| III 正味財産期末残高 | 1,933,510,330 |

| | 第36期 2017.3.31 | 第37期 2018.3.31 | 第38期 2019.3.31 |
|------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 55,220 | 71,650 | 77,603 |
| 固定資産 | 1,882,260 | 1,867,456 | 1,876,251 |
| 資産合計 | 1,937,481 | 1,939,107 | 1,953,855 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 2,612 | 3,038 | 3,105 |
| 固定負債 | 14,736 | 16,009 | 17,239 |
| 負債合計 | 17,349 | 19,047 | 20,344 |
| 正味財産の部 | | | |
| 指定正味財産 | 1,855,000 | 1,840,342 | 1,833,783 |
| 一般正味財産 | 65,131 | 79,717 | 99,727 |
| 正味財産合計 | 1,920,131 | 1,920,059 | 1,933,510 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,937,481 | 1,939,107 | 1,953,855 |

| 資産の部 | |
|----------|---------------|
| 【流動資産】 | |
| 現金預金 | 75,863,869 |
| 貯蔵品 | 1,414,720 |
| 仮払金 | 32,630 |
| 前払金 | 292,300 |
| 未収金 | 0 |
| 流動資産合計 | 77,603,519 |
| 【固定資産】 | |
| 基本財産 | 1,833,783,000 |
| その他の固定資産 | 42,468,689 |
| 固定資産合計 | 1,876,251,689 |
| 資産合計 | 1,953,855,208 |
| 負債の部 | |
| 【流動負債】 | |
| 未払金 | 2,269,014 |
| 前受会費 | 276,000 |
| 預り金 | 560,264 |
| 流動負債合計 | 3,105,278 |
| 【固定負債】 | |
| 退職金給与引当金 | 17,239,600 |
| 固定負債合計 | 17,239,600 |
| 負債合計 | 20,344,878 |
| 正味財産 | 1,933,510,330 |

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

収入・支出 単位:円



会員数の推移 2019年3月31日現在 単位:人(件)

| | 第36期 2017.3.31 | 第37期 2018.3.31 | 第38期 2019.3.31 |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 法人会員 | 223 | 227 | 224 |
| 特定法人会員 | 472 | 469 | 465 |
| エルダー会員 | 544 | 545 | 523 |
| 働きさん会員 | 1,719 | 1,707 | 1,697 |
| 個人会員A | 1,539 | 1,515 | 1,481 |
| 個人会員B | 3,061 | 2,908 | 2,931 |
| 個人会員C | 7,034 | 6,880 | 6,461 |
| 小計 | 14,592 | 14,251 | 13,782 |
| メイト会員 | 95 | 34 | 51 |
| (累計) | 174,019 | 174,053 | 174,104 |
| 合計会員数 | 14,687 | 14,285 | 13,833 |
| (累計) | 188,611 | 188,304 | 187,886 |

第38期(2018年)は、研修派遣生8名を世界各国へ派遣しました。

- **第1期 1981年**
 - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
 - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

- **第2期 1982年**
 - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
 - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。

- **第3期 1983年** ●留学生9名を派遣。

- **第4期 1984年** ●留学生9名を派遣。
 - 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



- **第5期 1985年** ●留学生9名を派遣。

- **第6期 1986年** ●留学生8名を派遣。
 - 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。

- **第7期 1987年** ●留学生8名を派遣。

- **第8期 1988年** ●留学生7名を派遣。

- **第9期 1989年** ●留学生7名を派遣。

- **第10期 1990年** ●留学生10名を派遣。

- **第11期 1991年**
 - 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
 - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

- **第12期 1992年**
 - 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



- **第13期 1993年**
 - 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

- **第14期 1994年**
 - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
 - 研修派遣生13名を派遣。

- **第15期 1995年**
 - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
 - 研修派遣生10名を派遣。

- **第16期 1996年** ●研修派遣生10名を派遣。

- **第17期 1997年** ●研修派遣生9名を派遣。

- **第18期 1998年** ●研修派遣生7名を派遣。
 - 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- **第19期 1999年** ●研修派遣生9名を派遣。
 - ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



- **第20期 2000年** ●研修派遣生8名を派遣。

- **第21期 2001年** ●研修派遣生9名を派遣。

- **第22期 2002年** ●研修派遣生9名を派遣。

- **第23期 2003年**
 - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
 - 研修派遣生11名を派遣。

- **第24期 2004年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第25期 2005年**
 - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
 - 研修派遣生11名を派遣。

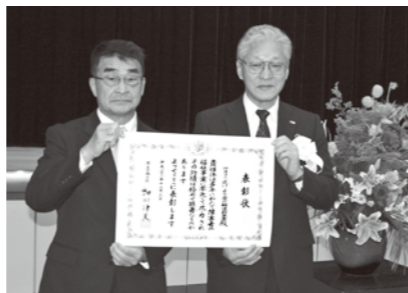
- **第26期 2006年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第27期 2007年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第28期 2008年**
 - 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
 - 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

- **第29期 2009年**
 - 研修派遣生16名を派遣。

- **第30期 2010年**
 - 研修派遣生27名を派遣。
 - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
 - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



- **第31期 2011年**
 - 研修派遣生19名を派遣。
 - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

- **第32期 2012年**
 - 研修派遣生13名を派遣。

- **第33期 2013年**
 - 研修派遣生9名を派遣。
 - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

- **第34期 2014年**
 - 研修派遣生14名を派遣。
 - 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

- **第35期 2015年**
 - 研修派遣生5名を派遣。

- **第36期 2016年**
 - 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
 - 研修派遣生7名を派遣。

- **第37期 2017年**
 - 研修派遣生8名を派遣。
 - 「ミドルグループ研修」が加わる。

- **第38期 2018年**
 - 研修派遣生8名を派遣。

■役員

(任期:2019年6月19日~2021年6月開催予定評議員会)

| | | | |
|----|------|---------------|---------------------------|
| 理事 | 理事長 | 山村 輝治 | (株)ダスキン 代表取締役 社長執行役員 |
| | 専務理事 | 宮原 和之 | (株)ダスキン ミスタードーナツカレッジ学長 |
| | 常務理事 | 室山 都子 | (公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長 |
| | 理事 | 宮城 まり子 | (学)ねむの木学園 理事長 |
| | 理事 | 山脇 節子 | ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長 |
| | 理事 | 松友 了 | 社会福祉士事務所・早稲田すばい 社会福祉士 |
| | 理事 | 五十嵐 紀子 | (社福)光友会 理事長・総合施設長 |
| | 理事 | 松井 亮輔 | (公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長 |
| | 理事 | 關 宏之 | (社福)日本ライトハウス 常務理事 |
| | 理事 | 山本 貴之 | ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長 |
| | 理事 | 崎野 圭子 | ダスキン生産協栄会 理事長 |
| | 理事 | 大熊 由紀子 | 国際医療福祉大学大学院 教授 |
| 理事 | 田門 浩 | 都民総合法律事務所 弁護士 | |

(任期:2019年6月19日~2023年6月開催予定評議員会)

| | | | |
|-----|-----|-------|-----------------------------|
| 評議員 | 評議員 | 青柳 紀 | (株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長 |
| | 評議員 | 東 正樹 | ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長 |
| | 評議員 | 下 二郎 | ダスキン労働組合 委員長 |
| | 評議員 | 須田 隆 | 興隆産業(株) 代表取締役 |
| | 評議員 | 桂 慎太郎 | ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長 |
| | 評議員 | 中尾 知也 | ダスキンレントオールコミュニティ会 理事長 |
| | 評議員 | 花島 弘 | (社福)日本点字図書館 理事 |
| | 評議員 | 福母 淳治 | (公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事 |
| | 評議員 | 佐浦 隆一 | 大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室教授 |

(任期:2019年6月19日~2023年6月開催予定評議員会)

| | | | |
|----|----|-------|----------------|
| 監事 | 監事 | 内藤 秀幸 | (株)ダスキン 上席執行役員 |
|----|----|-------|----------------|

(任期:2019年6月19日~2021年6月開催予定評議員会)

| | | | |
|----|----|-------|------------------|
| 顧問 | 顧問 | 伊東 英幸 | (株)ダスキン 元代表取締役会長 |
|----|----|-------|------------------|

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2019年4月1日~2021年3月31日)

| | | | |
|--------|------------------------|-------|-------------------------------------|
| 青松 利明 | 筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭 | 小林 洋子 | 筑波技術大学 講師 |
| 青柳 まゆみ | 愛知教育大学 准教授 | 長瀬 修 | 立命館大学 教授 |
| 金塚 たかし | 大阪精神障害者就労支援ネットワーク 統括所長 | 福田 暁子 | 全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員 世界盲ろう者連盟 事務局長 |
| 尾上 浩二 | DPI日本会議 副議長 | 小林 昌之 | 日本貿易振興機構 アジア経済研究所 主任調査研究員 |

■ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2019年4月1日~2021年3月31日)

| | | | |
|-------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 寺島 彰 | (公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与 | 野村 美佐子 | (公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与 |
| 山口 和彦 | NPO法人 居宅移動支援事務所 TOMO 事務局長 | 村瀬 道雄 | (社福)光友会 |
| 河村 宏 | NPO法人 支援技術機構 副理事長 | 藤田 俊二 | NPO法人 メインストリーム協会 理事長 |
| 嶋本 恭規 | (一財)全日本ろうあ連盟 理事 | 川口 聖 | 国立民族学博物館 外来研究員 |

■愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2018年4月1日~2020年3月31日)

| | | |
|-------|--------|---------------------|
| 北海道地域 | 吉川 哲也 | (株)ダスキンフロンティア 代表取締役 |
| 東北地域 | 稲葉 廣直 | (株)アイウェイ イナバ 代表取締役 |
| 東京地域 | 川島 商彦 | (株)ダスキン三吉屋 代表取締役 |
| 北関東地域 | 寺澤 義孝 | (株)ダスキン西蒲原 代表取締役社長 |
| 南関東地域 | 牧野 保 | (有)ダスキン茂原 代表取締役社長 |
| 北陸地域 | 長田 信行 | (株)ダスキン北陸 代表取締役 |
| 東海地域 | 小野 英昭 | タイホウフーズ(株) 代表取締役社長 |
| 近畿地域 | 山形 淳一郎 | (有)シーズ 代表取締役 |
| 中国地域 | 銅山 寛巳 | (株)ダスキン児島 代表取締役 |
| 四国地域 | 西岡 正人 | (有)ダスキン高知 代表取締役 |
| 九州地域 | 平野 明 | (資)ダスキン天草 代表社員 |

めい あい へるぷ ゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが。誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう
平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、
心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、
広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、
障害者のニーズを理解し、
ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、
すべての人間が深い絆で結ばれ、
社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>